



中小田古墳出土三角縁神獸鏡（文学部所蔵）

中国三国時代の魏で制作。魏帝から卑弥呼に贈られた銅鏡とされ、日本の古代国家成立過程で重要な役割を果たした。

# 広島大学研究教育総合資料館（仮称）の設立に向けて

（第一回）

文学部長



湯 浅 信 之

## 設立準備委員会の発足まで

広島大学には、広島文理科大学や広島高等師範学校等の前身校の時代から、研究・教育のために集められ、活用されてきたおびただしい資料が、各学部、研究所、図書館などに分蔵されています。昭和二十四年に新制広島大学として発足してからも、すでにおよそ半世紀が過ぎようとしており、その間に各分野における研究教育のために新たに収集された資料も、膨大な量にのぼっています。今では、学内全体にわたるそうした貴重な資料の全容は、把握するのが困難な状態になってきています。そこで、広島大学が所有するこれらの学術資料を中心とする、大学研究資料館、もしくは大学博物館を設立しようとする構想が、理学部や文学部を中

心として、早くから検討されてきました。平成元年四月に将来構想検討委員会が提出した「二十一世紀へ向けての広島大学のあり方」と題する答申には、その第七章「キャンパス整備と文化的環境づくり」の中に、次のように書かれています。

西条キャンパスのシンボルの一つとして、中央部近くに建設予定の附属図書館等がある。それに加えて近い将来、大学博物館もしくは総合資料館を建設して、学術・教育・文化センターとしての西条キャンパスの「シンボル・ゾーン」を形成することが強く望まれる。

ここで提案する大学博物館または総合資料館は、一つには広島大学の沿革や現状、学部・学科等で受けることができる教育内容が、物と映像とで陳列

されており、進学志望の高校生や留学生はこれらの展示から自分の進路を決定したり、また、学際的な学習の可能性を探ることが出来る場所である。

一方、本学の各研究室においても、これまで膨大な教育・研究資料が蓄積されているが、その内容は研究室内部の者しか知らず、また、研究者に移動があればその資料は個人に従って移動するか、死蔵されるかどちらかの運命をたどっている。このような資料が収集・整理のうえ、公開・陳列され、誰もが目にする事ができるようにになれば、学際的な利用や国際的な利用にも役立つものと思われる。

その意味において、これからの大学にはこれまでの教育研究資料や業績を、専門外の者や、外国人留学生たちにも理解させるための博物館機能が必要不可欠になり、そのような施設の設置は、広島大学が「開かれた大学」構想を実現するうえでも、きわめて重要な意義を有している。

ここに書かれた事柄のうち、附属図書館については、本年十二月に第二期工事が完了して、当初計画されていた建物が完成を見ることになっていきますが、大学博物館もしくは総合資料館については、これまで、設立に向けての歩みはやや緩慢なものでした。しかし、本年五月、全学的な立場から「広島大

学研究教育総合資料館設立準備委員会」が設置され、それに続いて「専門委員会」も発足して、全学的な理解と要望のもとに、広島大学研究教育総合資料館の設立に向けての動きが本格化しました。

### 他大学と本学の状況

専門委員会では、委員長に文学部の位藤邦生教授、副委員長に理学部の原郁夫教授を選んで、設立に向けての計画作りが精力的に進められています。これまでに、東京大学、東北大学、名古屋大学、京都大学等の資料館、博物館の視察が行われ、多くの資料が集められました。

東京大学は昭和四十一年に「総合研究資料館」が発足し、現在では研究部、資料部の二部門に分かれ、事務部が設置されて、活発な研究教育活動が行われています。東北大学には「植物園記念館」があり、現在「理学標本館」が建設されています。名古屋大学では「年代測定資料研究センター」に「古川総合研究資料館」が併設されていて、日本最古の岩石や高木家文書等の常設展示を含めた盛んな活動が行われています。また京都大学では文学部に博物館が付設されていて、京都大学所蔵の貴重資料が展示されています。こうした他大学の状況を見るだけで

も、現時点における広島大学の立ち遅れと、総合資料館設立の必要性、また設立に向けての広島大学全学としての悲願は理解されましよう。平成三年度には教育研究学内特別経費、いわゆる学長料研の交付を受けて「広島大学研究教育資料機器調査」が行われ、全学に所蔵される古文書・資料・機器類の全容を知るための基礎調査が行われました。概要の報告書も出されていますが、残念ながら、多くの構成員の力がたの知るところとはなっていない。広島大学が所蔵している貴重な資料のいくつかについては、次回以降にご紹介することにします。

(ゆあさ・のぶゆき)



文学部中庭に展示されている組み合わせ石棺（広島市上小田古墳出土）と竪穴式石室（池の内第二号古墳出土）

## 告知板

### 中・四国アメリカ学会

#### 第二十二回年次大会

●期日 平成六年十一月五日(出)、六日(回)  
●会場 広島修道大学  
(広島市安佐南区沼田町大塚一七一一)

第一日 十一月五日(土)

〔開会の辞〕糸藤 洋(中・四国アメリカ学会会長)

▽研究発表Ⅰ(十三時三十分〜十五時)

司会 丸田 明生(下関市立大学)

1 オニールにとって「生きる」とはいかなる事であったのか……勝 健一郎(安田女子大学)

2 鎖国日本における異文化コミュニケーション……坂本 肇(福島大学)

▽研究発表Ⅱ(十五時十五分〜十六時四十五分)

司会 中野 博文(広島大学)

1 ジョージ・ケナンと冷戦初期米国の核政策……鈴木 健人(広島市立大学)

2 国民意識の形成とアメリカ革命……肥後本芳男(同志社大学)

▽特別講演(十七時〜十八時)

司会 今石 正人(広島修道大学)

The Soulful Music of African-American Drama……Owen E. Brandy (Clarkson University)

▽懇親会(十八時十五分〜二十時)

挨拶 山田 浩(広島修道大学)

司会 山口 格(広島修道大学)

第二日 十一月六日(日)

▽シンポジウム(九時三十分〜十二時)

テーマ:アメリカ文化と「環境」

司会 伊藤 詔子(広島大学)

1 Thoreau and American Nature Writing……上岡 克己(高知大学)

2 アメリカにおける環境法の展開……本畝 淑子(広島大学大学院後期課程)

3 アメリカの環境保護運動の歴史について……岡島 成行(読売新聞社)

▽総会(十二時〜十二時二十分)

進行担当 鹿野 忠生

(中・四国アメリカ学会事務局長)

〔閉会の辞〕(十二時二十分)

五十嵐二郎(中・四国アメリカ学会副会長)